

夢窓幼稚園通信第62号

2020年 1月8日

年長の子どもたちが作る クリスマスの時のお家へのプレゼントを丸太人形にしようと思っから、ちょうど30年が立ちました。生まれてきた人形は、子どもたちの数と一緒になので1422人。勢ぞろいしたらきっと楽しくて壮観でしょう！ひとつひとつがそれぞれ個性がありながら、同じ釜の飯を食ったような共通のものが流れているに違いありません。

今年もたくさんの方のクリスマスカードや年賀状をいただきました。

- …さて、思えば、高校での吹奏楽生活最後の定期演奏会の時にお寺紙と玄米おかきを頂いたのに、ちゃんとお礼も出来ず今まで来てしまいました。あの時の先生のお気持ちが本当に嬉しくて、懐かしい味と温かなメッセージに涙したのを今でも覚えています。今はいよいよ社会人となり、慌ただしくも濃い日々を過ごしています。職場の方々も皆様優しく素敵を入ちばかりで、このめぐり逢いに感謝しています。お陰様で先日ボーナスも頂き、だんだんと社会人の自覚が強まってきました。ご挨拶と以前のお礼に少しですが、お菓子を送ります。またお会い出来る日を楽しみにしています！
(2002年度 卒園生)

- 「お客さまで小さな子どもを連れて来てくれるお母さんがいるの。その時子どもの目線で座って話しかけるんだ。それは夢窓の園長先生と先生が話す時必ず子どもの目線だったから」
べに残っている事を今社会人になって行動しているようです。「先生ありがとう」って言っていました。
(2002・2004・2007年度 卒園生のお母さん)

いたらないことが山ほどあっても、子どもたちは素敵に大きくなっていく様子に思わず手を合わせたくになります。それぞれ自分が選び与えられた一本の道を、それぞれらしく、自分をメタモルターせさせながら進んでいってほしいな！と願っています。「時」をいのちあるものと感じられるのは、「人」をそこに感じる事ができるからなのでしょう。

夢窓幼稚園の3学期が始まりました。

ひとつひとつの「今」をいのちある時にはしていけるように、しめくりと次の年度の準備を力を合わせよろこびの中で進めていきたいと思っています。

園長 升光 素雄